

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.88
2月号
2016 February

今月のことば

冬来たりなば
春遠からじ

厳しい冬が来たということは、暖かい春はもうそこまで来ているという、待ちわびる意味があります。苦難を乗り越えようと、その後必ず喜びや幸せが来るということとでも使われます。



国土館大学教授
北 俊夫先生

アクティブ・ラーニングとは何か

- 「アクティブ・ラーニング」とは、子どもたちが主体的・協働的に学ぶ学習のことです。小学校ではこれまでも取り入れてきた指導方法です。
- アクティブ・ラーニングをとおして、将来に通用する汎用的な能力を育てることを目指しています。実践に当たっては、目的と方法（手段）を混同しないようにしたいものです。

今月の記念日

ビスケットの日(2月28日)

1980年(昭和55年)に、全国ビスケット協会が制定しました。1855年、長崎に留学していた水戸藩の柴田方庵が、パンの製法を文書で初めて伝えた日とされています。

カタカナ語の魔力

いま学校現場に「アクティブ・ラーニング」の言葉が飛び交っています。きっかけになったのは、平成26年11月、文部科学大臣が中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問した内容です。諮問について説明した理由のなかに、「アクティブ・ラーニング」の用語が4か所にも登場したからです。

諮問の内容は、次期の学習指導要領のあり方について、議論の視点や方向性を示したものです。そのため、一躍注目を浴びることになったのでしょう。

一般に、カタカナ語には新しいイメージを伝えたり、新鮮さを印象づけたりする役割があるようです。訴える力もあります。最近の広告や議論のなかに多くのカタカナ語が登場するのはそのためでしょう。「問題や課題」というより、「デメリット」「リスク」などと表現すると、受けとめ方がどこか違ってきます。

アクティブ・ラーニングを初めて耳にしたとき、「また新しいことが始まるのか」と受けとめた人も多いことでしょう。これまでの教育界ではあまり語られることがなかった用語ですからやむを得ないことですが、これは言葉だけが独り

歩きし始める前兆です。

なぜいま、アクティブ・ラーニングなのか、アクティブ・ラーニングは何を目指しているのかなど、背景や目的をまず押さえておきたいものです。

新しい学習活動なのか

アクティブ・ラーニングとは「主体的・協働的に学ぶ学習」のことです。教師が一方向的に講義し、知識を伝達する授業ではありません。例えば、問題解決的な学習や体験的な学習、グループワークなどの小集団活動、討論したり議論したりする話し合い活動、製作や実習、実験や観察、調査活動など、子どもによる主体的な活動を取り入れた学習方法のことです。これらの学習では、いま話題になっている、子どもたちの言語活動を充実させることができます。言語は学習を展開するために不可欠な道具だからです。

これらの学習方法は、いずれも子どもたちの主体的で能動的な学習活動だと言えます。アクティブ・ラーニングの提案は、学びの質や深まりを子どもの側から提起したものと受けとめることができます。

このように見てくると、アクティブ・ラーニングは特に小学校においてまったく新しい取り組みではないことに気づき

ます。各教科の特質や指導のねらいを踏まえて、適切なアクティブ・ラーニングを選択するなど、主体的に取り入れることが肝要です。

アクティブ・ラーニングの目的

かつて、習熟度別学習や言語活動の充実が提起されたときもそうでした。新しい課題が提起されると、どうしてもそのことだけに目が向きがちです。その手だてをオールマイティなものにとらえ、目的化してしまう傾向が特に小学校においてみられます。また、提起された課題を「はじめに〇〇〇ありき」としてとらえ、視野が狭くなってしまふこともあります。

子どもたちがアクティブに学ぶ学習をとおして子どもたちに育てようとしていることは、問題解決能力や批判的な思考力、コミュニケーション能力など、教科横断的な能力と言われる汎用的な能力です。これらの能力は、社会生活を営むうえで問題や課題を解決したり、物事を見たり考えたりするときに必要とされるものです。まさに「生きる力」として機能するものです。

アクティブ・ラーニングの提起は、授業の質的充実を図り、子どもたちが社会のよき形成者として成長させることを目指しているものです。

「早く！ 早く！」

親や教師が子どもにたびたび投げかける言葉に「早くしなさい」「早く、早く」があります。これは行動を急がせる言葉で、時間に間に合わないときや子どもがのんびり行動しているときなどについてしまう言葉です。

朝、子どもが起床してから学校に出かけるまでに「早く！」という言葉は何回連呼しているでしょうか。起きるとき、顔を洗うとき、着替えるとき、学用品を揃えるとき、食事のとき、家を出るときなど思っている以上に「早く」の言葉を発しているものです。

ある調査によると、「早く」の回数が30回を優に越えたといえます。6時20分に起床してから、家を出るのが7時40分の場合、2分40秒の間にほぼ1回の計算になります。

言葉を発している保護者のイライラしている様子が伝わってきます。ところが、一方の子どもはそれほど気にしていない様子です。「早く」の言葉をできるだけ少なくし、できれば言わなくてもすむようにするためには、早めに行動させることでしょう。次に何をするのか、見通しを立てて余裕をもって生活を送るようにすることです。

そのためには、家庭での過ごし方などを示した日課表を作成する方法があります。作成に当たっては、その必要性を説き、無理のない計画を子どもと一緒につくります。何ごとにも、自分の意思で取り組むという目的意識をもたせるとともに、自発性を育て、自立を促すことが何より大切です。



小学生の暴力行為

平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について、調査結果が昨年9月に公表されました。主な調査内容は、暴力行為、出席停止、不登校などです。

特に注目されるのは、暴力行為（対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊）の状況です。小・中・高校における発生件数は54,242件でした。前年度と比べて、約5千件も減少しています。

ところが、小学校（国立、公立、私立）では前年度の10,896件から11,468に増加しています。学校内

で10,605件、学校外で863件です。ほとんどが学校内で発生しています。学校内での暴力行為の発生率（千人当たりの発生件数）は、調査が初めて行われた平成9年度には0.2でしたが、その後0.3（16年度）、0.9（21年度）、そして平成26年度には1.6と上昇しています。

暴力行為の内訳は、学校内での対教師暴力は、加害児童数が1,204人で、被害にあった教師が1,559人でした。同じく生徒間暴力は、加害児童数が6,260人で、被害児童数は6,404人でした。

小学生の暴力行為が増加している背景や原因、理由などを多方面から検討し、暴力行為の撲滅に向けて早急に対処することが求められます。

コラム

ものの見方・考え方とは何か(16)

条件を揃えて

複数の事象を対比して見たり考えたりするとき、また両者を比べて有効性や優劣を判断するとき、予め条件を揃えておく必要があります。そのなかでひとつの条件だけを違えておくと、結果を考察するときその条件の有効性を確かめることができます。

理科の授業に、植物の発芽の条件を調べる実験があります。発芽するためには、水と空気と適温が必要です。水が必要であることに気づかせるには、同じ環境において一方に水を与え、一方には水を与えません。確かめたい条件だけを違えます。これによって、発芽には水が必要であることを発見させることができます。実験・観察に当たっては、揃えることと違えることという条件の整備が求められます。

実際の授業では図表を作成します。共通の条件と違った条件のそれぞれの結果を目に見えるようにすると、理解が深まります。

日常生活で、1キログラム500円のミカンと、2キログラム900円のミカンのどちらを選ぶかというとき、価格を比べることは必要ですが、併せて、産地や味、新鮮さや日持ち、食べる人の数などの条件も加味して選択します。価格以外の条件が同じであれば、通常価格の安いほうを買い求めます。

複数の事象のなかから選択したり優劣や善悪を判断したりするとき、条件を揃えて見たり考えたりすることは大切な要件だといえます。そうでないと、不公平な見方や考え方をし、それにもとづいて誤った選択や判断をしてしまうことがあるからです。

INFORMATION

近刊

だれでもできる

社会科
学習問題づくりの
マネジメント

◎著者 北 俊夫
◎予価 本体950円＋税
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ



本書は、学校現場における先生方の悩みや課題を受け、私のこれまでの経験などを踏まえて、特に学習問題をつくる場面の指導のあり方について実践的に論じたものです。（「まえがき」より）

- I章** なぜ、問題解決的な学習なのか
—社会科学習の全体像をつかむために—
- II章** 社会科における「学習問題」とは何か
—大切なことは「学習問題文」より「問題意識」—
- III章** 「学習問題づくり」のどこが問題なのか
—10のチェックポイント—
- IV章** 学習問題づくりの方法
—その手ほどき—
- V章** 学習問題づくりの実例
—各学年の典型事例—

編集後記

左のINFORMATION欄でご案内の通り、北先生の新刊が発刊されます。ぜひ書店で手にとってご覧ください。文溪堂の特約代理店でもご注文をお受けいたします。

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2016年2月1日